（管理規則第3条実施要領 別紙様式）

Ｎｏ.（１）

2026年度（令和8年度）学校評価自己評価表

新市中央中学校区	校番 68	福山市立新市小学校
	最終更新日	2026年（令和8年）4月1日

Ⅰ 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現

Ⅱ 中学校区

前年度学校運営協議会（学校関係者評価）の主な内容

- 学校や地域等で、気持ちの良い挨拶ができている。また、教職員が、生徒たちの取組を「自分事」としてとらえることができている。
- メディアコントロールの取組では、生徒が自分で考え、「やってみよう」という意識づくりの大切さが伝わってきた。引き続き、自分で気づき、行動する力を高めるように指導・サポートをしてほしい。
- 学力向上へ向けての取組を継続してほしい。

児童生徒の現状

- 学力調査等の結果から、基礎的・基本的な内容が定着してきている。また、家庭及び地域の方の力を結集し、メディアコントロールに取り組んでおり、生活習慣の改善が見られ始めている。
- 校区で育てたい資質・能力を意識しながら各活動に取り組むことで、校区全体の肯定的評価は、チャレンジ&チェンジする力（88.1%）自己理解力（87.0%）自己表現力（83.4%）といずれも80%を超えており、4月と12月比では、12月比はいずれの項目も上昇している。

育成する資質・能力	チャレンジ&チェンジする力、自己理解力、自己表現力
めざすこども像（義務教育修了時の姿）	・自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 ・自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。 ・自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。
中学校区として統一した取組等	・児童生徒や教職員、地元事業者、地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究的・体験的な学習など、様々に取り組んでいく。

Ⅲ 自 校

学校教育目標

新市の町で、自ら学び、やさしく、たくましく生きる子どもたちの育成

現 状

＜児童＞
○ 算数科、図画工作科を中心に、各教科等で学ぶ児童の姿が成長している。
・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」児童 87.2%
・「自分の思いや考えを、相手や場に応じて分かりやすく説明している」児童 83.9%
○ 全国学力・学習状況調査正答率が、国語科・理科は全国平均を超え、算数科は下回った。問題を読み解く力、思考の過程を表現する力、問題を解くために必要な知識・技能の定着が不十分である。
・全国学力・学習状況調査 正答率40%未満の児童（6年） 19.3%
・単元末テスト 正答率40%未満の児童（全学年） 2.9%
○ メディアコントロール力の育成に向け、引き続き粘り強く取り組む必要がある。
・「1日のゲーム等3時間以上」児童 32.7%

＜授業＞
○ 「ふるさと自慢」を中心とする地域資源を活用した学習が各学年で浸透してきている。
・「地域の人や課題などに児童が触れる機会を持っている」教職員76.9%
○ 改善ポイントを意識した授業づくりを進め、学力の向上につなげていく必要がある。
・「教科の面白さを実感している」教職員100%
○ 授業づくり、カリキュラムの充実等に対し、教職員の意識は着実に向上している。
・「子どもの学びや発達への理解を基にカリキュラムを見直し、実践している」教職員100%

育成する資質・能力		チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
めざすこども像	低学年	自分のやりたいことに挑戦している。	自分のよさに気づく。	自分の思いを相手に伝えることができる。
	中学年	困難なことにも挑戦し、最後までやりきることができる。	自分の得意なことや夢中になれることを見つける。	自分の思いや考えをまとめて表現することができる。
	高学年	活動を振り返り、改善策を考えることができる。	自分の将来の夢や目標を持つ。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて説明することができる。

研究	テーマ	教科・地域・仲間とつながり、資質・能力を育む学びのデザイン ～考える過程と表現を大切にすることを通して～
	内容等	・各教科等、単元（題材）、地域、家庭、仲間とつながり、資質・能力を育成する学びづくり ・そもそも「何を学ぶか」「何につまずいているか」に立ち返った教材研究 ・正解を求めるだけでなく、正解にたどり着く過程を大切にした授業づくり ・自分の思いや考えを「話す、聞く、書く」「つくる、みる」ことにこだわった授業づくり
めざす授業の姿		・新市の課題を解決することを通し、各教科等で身に付けた力を発揮している。 ・確かな教材研究を土台に、「何を学ぶか」「何につまずいているか」「どう学ぶか」を明確にし、各学年の学習内容を確実に身に付けている。 ・文章、言葉、数、記号の意味や根拠を「そもそも」「なぜ」と問うている。 ・「繰り返し身に付けること」と「考えることを通して身に付けること」を一体的に捉え、授業や授業につながる帯タイム・家庭学習に意欲的に取り組んでいる。

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立新市小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	地域資源を活用しながら、教科学力と学習習慣を一体的に育成する。	★	新規	分析に基づく授業改善と学習習慣等の授業以外の取組を通し、確実に学習内容を身に付ける。	・学力調査結果の分析に基づく授業づくりを起点とし、各学年の学習内容の確実な定着を進める。 ・校区でメディアコントロールに取り組み、学習習慣の定着と家庭学習の充実を一体的に取り組む。 ・地域課題に触れ、目的・相手に応じた表現力を育成する。 ・授業、行事を通し、運動の楽しさを実感する授業づくりを進める。	・学力調査・単元末テスト等の平均正答率40%未満の児童前年度以下（R7学テ 19.3%） ・1日の学習時間、学年目標（学年×10+10）70%以上 ・「1日のメディア3時間以上」児童前年度以下（R7 32.7%） ・「自分の考えを分かりやすく説明している」児童前年度以上（R7 83.9%） ・運動・スポーツが「嫌い」児童前年度以下（R7 6.8%）									
1	こども一人一人が力を発揮できる多様な学びの場と支援を充実する。		新規	個別に配慮を要する児童の状況に応じた支援・学習環境を充実する。	・個別に配慮を要する児童の指導計画を作成し、個に応じた支援の実現・改善に取り組む。 ・学校図書館運営協議会を通し、児童の利用状況に応じた利用活性の取組を進める。	・「学校に行くのは楽しい」児童前年度以上（R7 94.3%） ・不登校児童の出現率減少（R7 1.1%） ・「学校図書館を週1回以上利用している」児童前年度以上（R7 42.6%）									
6	教職員が元気・笑顔で勤務できる環境を充実する。		継続	教職員が、児童の成長と学力の向上を実感し、やりがいを高める。	・授業づくりポートフォリオに基づき、各教員が研究授業に取り組み、児童の成長と授業力向上を実感する。 ・教職員発の取組を実現し、所属感や自己肯定感の向上を図る。	・「やりがいがある」教職員前年度以上（R7 100%） ・「授業づくり時間確保されている」教職員前年度以上（R7 76.9%） ・時間外在校等時間月30時間以下の教職員70%									

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。